

# 和泉妃愛の甘えたがり巣ごもり生活

01ひよこの国からこんにちは

【妃愛】

「お兄、ただいまー」

【妃愛】

「ごめんね、少し遅くなっちゃって。お腹すいたでしよ、すぐごはん作るね」

【妃愛】

「今日はね、肉じゃがを作るよ。お肉には牛を使うよ。フッフこの意味が読み解けるかな？」

【妃愛】

「またまたとぼけちゃって。仕方がないのでヒントをあげるよ。私がお兄からされて一番喜ぶものはなあに？」

【妃愛】

「あれれ？ それともお兄は、私の大好きなものをまだ知らないお兄なのかな？」

【妃愛】

「私たちの関係がどんなもので、それをどう守っていくことにしたか。お兄と私で約束したよね」

【妃愛】

「私がずっと望んでいたもの……私が手に入れたくて、でもきつと届かないと諦めていたもの……」

【妃愛】

「私の欲しかったものを与えてくれたお兄へのお礼に、今日はいっぱい甘やかしてあげたいの……」

【妃愛】

「それと私にも、私の欲しいものをお兄にいっぱい与えてもらえるよう、甘えてしまいたいと思っているよ」

【妃愛】

「なので、私の自撮りを見てなかったり、錦さんのパイを揉む私を見てなかったり……」

【妃愛】

「あと私に生涯養われる覚悟を決めていないお兄は、ここで一度回れ右して、私にいっぱい甘やかされてきてね」

【妃愛】

「私はお兄がいないとダメな子なので。お兄がいないとぜんぜん大丈夫じゃない子なので。今日もお兄のおふとんの中で待ってるね」

【妃愛】

「おふとんの中ではお兄と密着していたいので……誰にも聞かせられない大切な話をしたいので」

【妃愛】

「私たちの声が外に漏れないよう、しっかりイヤホンかヘッドホンをしてね」

【妃愛】

「さーて、それじゃあ牛のお肉の肉じゃが作るぞー！ 今日はずきゅう！ すっごいずきゅう！」

【妃愛】

「それと明日はお仕事休みなので……どれだけ夜ふかししても平気だよ」

【妃愛】

「いっぱい幸せなこととしてぐっすり寝たら、明日はふたりでくつつきながら、一日ごろごろして過ごす。ね、お兄？」

02寂しいひよこ

【妃愛】

「うへへへ、お兄いゝ」

【妃愛】

「本日も私の大好きな時間がやってまいりました」

【妃愛】

「はあゝ、この時間を過ごすために、毎日お仕事先ばれるうゝ」

【妃愛】

「ああいや、嫌なことがあったわけではなくてね」

【妃愛】

「誰だって疲れたときは、おいしいもの食べて癒されたかったり、お風呂に入って温もりたいのと同じで」

【妃愛】

「この妹は癒やしと温もりを求めて、本日もお兄のぎゆうを所望します」

【妃愛】

「前はねー、お兄と同じおふとんで寝るようになる前は、部屋でお香を焚いたり、紅茶を飲んだりして癒されてたのだけど、今ではすっかりお兄のぎゆうに夢中」

【妃愛】

「人肌ってのは不思議だね。触れているだけで、とてつもない安心感に包まれるね」

【妃愛】

「もっとも私が今後触れるであろう人肌はお兄の肌だけだし、私が安心して身体を預けられるのもお兄だけなので、私の求める心地よさはお兄の腕の中でしか得られないのだけど」

【妃愛】「というわけで、今日も仕事で疲れたこの妹のために、ぎゅうしてぎゅうしてお兄ぎゅうして」

【妃愛】「わあ、お兄のぎゅうだあ。えへへ、しゃーわ  
せー」

【妃愛】「ね、ね、このまま」「ろん」ってしよ」

【妃愛】「お兄に抱きしめられたまま寝転がりたいいゝ、押  
したおしてえゝん」

【妃愛】「きゃー！ お兄といっしょにベッドへ寝転がるの  
好きー！」

【妃愛】「お兄のお布団に潜りこむの好きなんだけどね」

【妃愛】「最近はどうしていっしょに寝てしまうので、なか  
なか潜りこむ機会がないね」

【妃愛】「今度お兄が昼寝してたらこっそり忍びこむね、て  
へへ」

【妃愛】「はあー、お布団の中でお兄の腕にぎゅうされてる  
の気持ちいゝ」

【妃愛】「お兄の鎖骨ごりごりしててちゅきいゝ」

【妃愛】「お兄の鎖骨におでこぐりぐりするのもちゅきいゝ  
えいゝいゝ」

【妃愛】「鎖骨は痛いかな？ 痛そうなのでやめるね」  
「めんね」

【妃愛】「代わりにお兄の胸に頼ずりするう」

【妃愛】「お兄の胸ちゆきいゝ頼ずりさせてもらうのもちゆきいゝ」

【妃愛】「うえははは、ちよつと童心に返りすぎてるかも」

【妃愛】「ごめんねお兄、寝る前なのにじゃれついてしまつて」

【妃愛】「お兄の腕で抱きしめてもらっているのだと思うと、とても気持ちが満たされてしまつて」

【妃愛】「これはね、恋人としてのときめきだったり、家族としての信頼だったり、私の一番大切な存在がここにいてくれるという確認だったり、色んな感情が同時に私の胸を締めつけるわけさ」

【妃愛】「ドキドキしながらほつとするだなんて、真逆の愛しさがめちよめちよに絡みあつて、今わたしのお兄に対する愛情、とんでもないことになってますけども」

【妃愛】「こんな感情、他の人には絶対抱けないと思う」

【妃愛】「生まれたときから他人じゃないお兄が恋人だから、こんなに愛しいんだ。きつと」



【妃愛】「大ちゆき。幸せ。私はもう、一生お兄から離れられないね。もつとぎゅうして」

【妃愛】「えへへ、最近は甘えてばかりでごめんねえ。以前と立場が逆になってしまったね」

【妃愛】「でもね、お兄に甘えられる自分が、ちよつと羨ましくもあるんだあ」

【妃愛】「自分が羨ましいって、何言ってるんだと思うかもしれないけど、昔の私のままなら、お兄になんの遠慮もせずに甘えることなんてできなかっただろうから」

【妃愛】「どこか諦めていた日の自分が、今の私を羨ましそうに見てるんだ。幸せになれてよかったねって」

【妃愛】「って、ちよつと痛いと言うか怖いこと言ったね私。せつかく甘々の空気だったのに、ごめんねえ」

【妃愛】「けど柄にもなく語ってしまったせいで、愛しさと切なさで胸がきゅんきゅんきてる」

【妃愛】「いつになく可愛がられてしまいたいかも」

【妃愛】「ねえお兄、今日は私からおねだりしてもいいかなあ？」

【妃愛】「ちゅうして」

【妃愛】

「んっ……んむっ、んっ……はあっ」

【妃愛】

「ん……へへ、あまっあまのキス」

【妃愛】

「もう、お兄のキスはお兄ちゃんみのあるキスだなあ」

【妃愛】

「優しくって安心できて、でもいけないことしてる気持ちになる少し切ないキス」

【妃愛】

「きゅーって！ いま胸がすぐきゅーってしてる！」

【妃愛】

「お兄とキスするの好き。好き。好き好き。大好き」

【妃愛】

「ね、次は恋人のキスしよう？ 優しいだけじゃなくて、ちよっぴりえっちなキス」

【妃愛】

「ごめんね、じゃれただけじゃなくて、気持ちが盛りあがってしまっ」

【妃愛】

「今日の妃愛は、お兄に愛されたくなくなってしまいました」

【妃愛】

「なので、ね？ えっちなちゅうして」

【妃愛】

「んっ！ んむっ、んっ、んむう……んっ、ちゅっ、れろっ、ちゅっ、れろっ」

【妃愛】

【妃愛】

（れろっ、ちゅっ、れろっ、ちゅうっ……れろっ、ちゅっ、れろお……）  
「ぶはっ……ふあっ、はあっ、はっ……おにい……  
お兄の恋人のキスも好きい……ね、もう1回しよ  
う？ お兄のキスして、恋人のキスして」

【妃愛】

（んちゅっ、ちゅっ、ちゅうっ……んむっ、ちゅっ、んむう……ちゅっ）

【妃愛】

「はあっ……お兄どうしよう、お兄とキスするの好きすぎて、今夜一晩中キスしてたいよお」

【妃愛】

「お兄とえっちなキスすると、女の子としての興奮  
といっしょに、子どものころの思い出まで……フ  
ラッシュバックしてしまって」

【妃愛】

「二人で秘密の悪戯をしてるみたいな気持ち、針  
みたいにちくちく胸に刺さって、その痛みが気持ち  
よくて……お兄に身体をいじられたい、いけな  
い妹になってしまう」

【妃愛】

「お兄に私の恥ずかしいところを触ってほしい……  
…」

【妃愛】

「ね、お兄……もっかいキスしよ……」

【妃愛】

（んちゅっ……ちゅっ、れろお、んっ、れろお……ちゅっ、れろお……）

【妃愛】

「ふあっ……さっきよりも濃いキス……ねっとり舌  
が絡んで、えっちすぎるよう……へへ」

【妃愛】

「お兄、好き……お兄はかけがえのない大切な人で、いてくれるだけで満足だったはずなのに……いまの私は贅沢になって、甘えて、愛されて、可愛がられたいと思ってしまっている……」

【妃愛】

「大ちゆき。ちゆきちゆき。たとえお兄が相手でも、私が誰かにこんな甘え方できるとは、自分でも思ってたかった」

【妃愛】

「軽く幼児退行してしまっているね、ちょっと恥ずかしい……でも、こんな甘えかたをしてる自分に、すぐくドキドキしてる部分もあって」

【妃愛】

「お兄とね、兄弟判定アウアウなこといっぱいしたい」

【妃愛】

「くすぐったくてこそばゆいさわりっこを朝までしたい」

【妃愛】

「こないけない妹でごめんなさい。でも、今の私は甘える子なので。可愛がられたいので」

【妃愛】

「妃愛はいま、とてもいけない期待をしています」

【妃愛】

「ね、お兄……私の身体のどこでもいいからさわって」

【妃愛】

「私も、お兄の……甘えがいのある胸をさわらせてもらうので」

【妃愛】

「まあさつきから頼ずりはさせてもらっているのだけど、それはそれとしてお兄の胸さわるのちゅきいゝ」

【妃愛】

「私はお兄の身体を遠慮なくさわらせてもらうので、お兄も私の身体を好きなようにさわってね」

【妃愛】

「えへへ、固くて平らなお兄の胸だあ……ちゅっ、ちゅう……くすぐったいかな？」

【妃愛】

「ねえねえお兄もさわってよう、舐めてよう」

【妃愛】

「兄弟でしちゃいけないことしようよう、してよう」

【妃愛】

「とは言っても、お兄は私をととても大切に扱ってくれるからなあ……うーん……」

【妃愛】

「じゃあこんな悪戯をしてしまおう」

【妃愛】

「そーれ、お兄の乳首くりっ」

【妃愛】

「あっ、くすぐったかった？」

【妃愛】

「えへへへ、それぞれ、くりくり」

【妃愛】

「あっお兄がくすぐったがってる！ それとも恥ずかしいのかなあゝ？」

【妃愛】

「お兄はお兄のくせに、妹に乳首をいじられてくすぐったいのも我慢できないのかなフッフ？」

【妃愛】

「それとも、くすぐったくないというのなら、私と同じところいじりっこする？ 私、お兄になんて絶対負けないし」

【妃愛】

「もし私が我慢できずに逃げてしまったら、このあとでお兄に気持ちいいことしたげる……」

【妃愛】

「なので、もしお兄が負けたら、お兄から私に気持ちいいことしてね」

【妃愛】

「じゃあ、よーい……えい、くりくりくりっ！」

【妃愛】

「んっ、ふうっ……やっ！ んっ……やっとお兄が、私の気持ちいいところさわってくれた……」

【妃愛】

「やっ、むずむずするう……んっ、やんっ……！」

【妃愛】

「お兄と乳首いじりっこ……すごくいけないことしてる気分……胸の奥がどんどん切なくなる……身体が芯がきゅーって締めつけられてしまう……」

【妃愛】

「んっ、やんっ！ やあ……んっ！ おにい……いま私、お兄に触れられて、すごくえっちな気持ちになってる……」

【妃愛】

「ううん、えっちになってるのは気持ちだけじゃなくて……んっ！」

【妃愛】

「やつ、身体まできゅんきゅんきて……やんっ！  
やつ、こんなこそばゆいの我慢できない……ひゃ  
んっ！」

【妃愛】

「やあつ、今日の胸……すごく感じる……切ないよ  
おっ！」

【妃愛】

「おにいっ、やつ、んっ！ あつ、おにいっ、  
あつ、ああつ、おにいっ……おにいい……」

【妃愛】

「おにい好き、好き、大好き、んっ、やつ、やあつ  
……おにい、吸ってえ……おにいに舐めてほしい  
……歯でこりこり噛みたい……んっ」

【妃愛】

「ひゃふっ！ おにいっ、おにいっ……やんっ！ お  
にいに、おにいに吸われてるう……」

【妃愛】

「やつ、好き……それ、すごく好き……おにい、お  
にいっ……！」

【妃愛】

「おにい、私いま、気持ちいい……胸が切なくて痛  
いくらいだけど……でも切なくなるたびに、お兄  
のこと好きになってく……」

【妃愛】

「もっと悪戯して……ふたりでいけないことしよう  
よう」

【妃愛】

「ね、おにい……こっちも触って……」

【妃愛】

「うん、私……お兄にさわられると、気持ちいいのをぜんぜん我慢できなかったので……お兄に負けてしまったので、気持ちいいこととしてほしい」

【妃愛】

「私もお兄の気持ちいいところさわるね……ね、もうこんなになってる」

【妃愛】

「お兄が私でおつきくなってくれるの嬉しいな……お兄の大事なところ。へへ」

【妃愛】

「お兄が自分でするときと同じくらい……ううん、それ以上に気持ちよくしてあげられるといいな」

【妃愛】

「力加減がお兄じゃないとわからないからね……痛くないようにしないと……んっ」

【妃愛】

「わ、私は……うん、気持ちいいよ……も、もうちよっと上……んっ！」

【妃愛】

「う、うん、そこ気持ちいい……な、中をいじられるのもいいけど、そこがやっぱり……感じやすい……んっ」

【妃愛】

「おにい……んっ、はあっ……おにい、おにいっ……んっ！」

【妃愛】

「やっ、気持ちいいのは私なのに……お兄のこゝ、どんどん硬くなってる……そんなに私の声、えっちな……」



【妃愛】「私は自分の声が好きなので……自分の声をお兄に聞いてもらうのが大好きなので……」

【妃愛】「えっちな私の声はお兄しか聞けないので……私の声で、お兄がその気になってくれたら嬉しい」

【妃愛】「お兄が私の声で興奮することなんて、絶対ないだろうと思っていたから……ちょ、ちょっと恥ずかしいはあるけど……んっ」

【妃愛】「お兄にだけ一番近い位置で聞かせてあげるね……お兄の耳元で……」

【妃愛】「んっ、やあっ……んっ、あふっ……んっ！ はあっ、あっ、おにい……んっ！」

【妃愛】「おにい……好き……んっ！ やう……やつ、ひゃんっ！ あっ、はあっ、おにい……好き……」

【妃愛】「はあっ、はっ、あっ、おにい……おにいの耳い……あむっ」

【妃愛】「あむっ……んっ、んむ、あむっ、んむ……へへ、くすぐったい、かなあ？」

【妃愛】「もっとくすぐったいことしたげるね……れろっ、れろ……れろ、れろっ」

【妃愛】

(れろっ、れろお……れろ、れろっ……れろお……)

【妃愛】

「えへへへ、我慢できる？　できない？　お兄が声出してしまふのなら聞きたい……んっ」

【妃愛】

「私、自分の声が好きって言ったけど、お兄の声も好きなので……私しか聞けない声を聞いてみたい気持ちはある……」

【妃愛】

「甘い声を出してしまってもいいんだよ、おにい……」

【妃愛】

（れろ、れろっ、れろお……あむ、れろっ、れろ……）

【妃愛】

「おにい……んっ、はあっ、んんっ……おにい、気持ちいい？　私はすごく気持ちいい……んっ、ふうっ、んっ……」

【妃愛】

「お兄の手でいじってもらって……んっ、私も、お兄のをいじって……お兄の耳を舐めて……いけないうことしてる感がすごい……やんっ！」

【妃愛】

「はっ、はあっ……おにいといじりっこ楽しい……子どものころのまま、身体だけ大人になったみたい、へへ……ひゃんっ」

【妃愛】

「こしこしするの気持ちいい……？　ね、おにい……もっと強く握ったほうがいいのか……こするかんじのほうがいい……？」

【妃愛】

「私のは、もっと優しいかんじで……うん……気持ちいい……はっ、はあっ、ゆび、いれて……おにいのゆび、欲しい……」

【妃愛】

「んっ！ んんっ、んっ……おにいのゆびい……んっ！ やっ、入ってくるう……もっと、中……あの、動かしてくれると……はあっ、んんっ……」

【妃愛】

「おにい……はあっ、お兄の指……お兄の指がはいって……私の中で動いて……んっ！ おにい……大好きなお兄の手……んっ！」

【妃愛】

「おにいの……んっ、はあっ、おにいの大事なものの、いれたい……んっ！ やあっ……」

【妃愛】

「おにいの気持ちいい、これ……私の中、いれてほしい……」

【妃愛】

「ひゃっ！」

【妃愛】

「やっ、ははっ……お兄が積極的でなければ、自分で上に乗ってしまうつもりでしたので……」

【妃愛】

「お兄がこうしてその気になってくれて嬉しい……やっ、足を開かれてしまうと……丸見えで、とても恥ずかしくはあるけど……」

【妃愛】

「あによ、お兄の顔も正面から見えてしまうので……」

【妃愛】

「う、ううん、お兄の顔見たい……見ながらしたい……」

【妃愛】

「でっ、でも、自分の顔見られるのは恥じゆかしい……やっ、からかわないでよおっ」

【妃愛】

「お兄の意地悪……私もお兄の顔を見ながら口でしてしまいたいけど……今はお兄にしてもらいたいから任せるね」

【妃愛】

「うん、大切にされたい……お兄から、一生大切に扱われたい……」

【妃愛】

「私のこと大切って言うってくれるお兄のそばで一生を過ごしたい……私を選んでくれてありがとう、お兄……」

【妃愛】

「へへ軽く泣いちゃったあ」

【妃愛】

「ごめんねお兄、えっちな気持ちのときにしんみりしてしまっ」

【妃愛】

「お兄との繋がりを感じさせて……幸せをください」

【妃愛】

「んっ！ んんっ、ふうっ、はあっ……おにいの、はいってきたあっ……！」

【妃愛】

「あっ、やあっ……おにいの、大きっ……あ、あんなにいっぱいしてても……おにいのが入ってくると、おなかいっぱいになる……えへへ」

【妃愛】

「んっ、やっ、はあっ……やんっ！ あふっ、おにいのが、私の中に……やっ、はいつて、るうっ……！」

【妃愛】

「はあっ、やっ、んっ、ふうっ……ひゃうんっ！」

【妃愛】

「やっ、おにいに顔見られちゃ……」

【妃愛】

「やっ、声出してる顔見ちゃだめえっ！」

【妃愛】

「私の声は聞いてほしいけど……顔見られるのは恥ずかしい、よおっ！」

【妃愛】

「やっ、あふう……ひんっ！ やっ、おにいだめえっ！ やっ、あんっ！ ああっ、やっ、やんっ！」

【妃愛】

「やあっ、おにいのおちんちん、出たり入ったりして……ひうっ、気持ちいい……やあっ、だから、顔そんなまっすぐ見られたら……ひゃうんっ！」

【妃愛】

「あふっ、はあっ、あっ、やんっ！ おちんちん、気持ちいい……あっ、おにいっ！ おにいっ、好きいっ！」

【妃愛】

「やあっ、うっ、うん、おにいが見たいなら……おにいの顔、見る……」

【妃愛】

「うう、恥ずかしい……あによ、手は握ってもらってもいい？」

【妃愛】

「おにいと手を繋ぎながらしたい……うん、ありがとう……」

【妃愛】

「おにいと手を繋いでると、すごく安心する……えへへ、このまま気持ちよくなれたら、最高に幸せだなあ……」

【妃愛】

「今日は大丈夫のように準備してあるから……私の中へおにいの気持ちいい証をいっぱいください」

【妃愛】

「んっ！ んんっ、あっ、はあっ、あっ……ああっ、んっ、あっ、やんっ！」

【妃愛】

「ああっ、おにいつ、ああっ、んっ！ おにっ、おにいつ、好きっ！」

【妃愛】

「あっ、やっ、もっと動かして……ああっ、やっ、もっとおにいを感じたい……やっ、おにいと今の関係になったのを実感したい……！」

【妃愛】

「おにいつ、ああっ、んっ、あっ、好きっ、大好きっ……はあっ、んっ、やっ、おにいとっ……おにいのそばに、ずっといられるのが、嬉しいっ……」

【妃愛】

「どんな形でもよかったのにつ……んっ、こんな最高の幸せを与えてくれて……好きっ、好きだよ、おにいっ……んっ！ やんっ！」

【妃愛】

「やあっ、おにいへの気持ちがあふれすぎて……幸せすぎて、それで胸いっぱいになるのが切なくて……でも身体は気持ちよくて……おにいこれ、ヤバイよおっ！」

【妃愛】

「やんっ！ ひうっ、やんっ、あっ、ああっ、やうっ……… ひゃんっ！」

【妃愛】

「おにい好きいっ……私を妹のまま、おにいのおよめさんにしてえっ……」

【妃愛】

「あっだめこれ、おにいすごっ……すっ、すごいのきちゃうっ……やんっ！」

【妃愛】

「愛しいのと切ないのと気持ちいいのがいっしょくたになった、ものすごいのがきちゃう……！」

【妃愛】

「おにつ、おにひっ……これ、絶対手を離さないでね……やうっ、やんっ！」

【妃愛】

「いま手を離したら、恥ずかしすぎて、絶対顔隠しちゃう……手でおおっちゃう……だって泣いちゃいそうなんだもん……ひあんっ！」

【妃愛】

「ごめんねおにい、わたし、イク瞬間、すっごくだらしない顔しちゃう……！」

【妃愛】「だから、わたしの情けない顔見なくなったら、お願いだから顔見ないでっ……!」

【妃愛】「こんなに胸が締めつけられながら気持ちいいこと  
されたら、絶対我慢なんてできないよおっ……!」

【妃愛】「やああっ……おにい、もおダメえっ! ひあっ、  
あっ、ああっ、イッちゃう、やあっ、わたし、イ  
ッちゃうっ……!」

【妃愛】「おにいの妹なのに、やんっ、おにいのおちんちん  
ですごく気持ちよくなっちゃう……!」

【妃愛】「はあっ、ひうっ、んっ……いけない妹でごめんな  
さい……やんっ、でも、おにいが好きいっ!」

【妃愛】「ああっ、やっ、すごいくるっ……おにいの前で  
だらしない顔しちゃうっ……見ないで、見ちゃだ  
めえっ!」

【妃愛】「でっ、でもっ……わたしの声では……わたしの声  
を聞きながら、おにいに気持ちよくなってほしい  
……やんっ!」

【妃愛】「あっイク、イッちゃう……! おにい、わたし、  
気持ちいいのくるっ……! おにいのおちんちん  
でイカされちゃうっ……!」



【妃愛】

「もう我慢できない……だからおにいも、私の中に気持ちいいのいっぱい出してえっ……！」

【妃愛】

「やつ、イクっ……！ イク、おにいイクっ……！ おにいと手を繋ぎながらイクうっ……！」

【妃愛】

「やあああああああっ！ おにいの、気持ちいいよおおおおっ！」

【妃愛】

「あっイクイクっ！ イッてるうっ……！ ああっ、あっ、やあああっ……！」

【妃愛】

「これ、すっ……おにい、いまわたし、すごいよおっ……！」

【妃愛】

「おなかの中におにいの温かいのを感じて……幸せで胸もお腹もいっぱいになってる……」

【妃愛】

「ふあっ、あっ、ごめんっ、おにい……まだイッてる……わたし、まだ気持ちよくて……ひあっ……」

【妃愛】

「ああっ、あっ、今日もすごかった……最後まで手を繋いでくれてありがとう……おにいといえっちすると、いつもこんな風になっちゃうね……」

【妃愛】

「わたし、毎日気持ちよすぎて、いつか頭おぼかさになっちゃいそうだなあ……えへへ」

---

【妃愛】

「今日もお兄に愛してもらえて、この妹は幸せでした」

【妃愛】

「なのでお兄が気持ちよくなりたいときは……私をぎゅうしたいときでもいいので、またいっぱいしようね」

【妃愛】

「おに大好き、えへへ」

---

03恋するひよこ

【妃愛】

「ゝゝゝ」

【妃愛】

「お兄ごめんねえ、いっしょにお布団まで入ったのに、すっかり寝る空気ではなくなってしまった」

【妃愛】

「でもお兄といっしょにシャワー浴びるのは好きなのでしあわせー」

【妃愛】

「今日はいっぱい汗かいたので、私がお兄を綺麗にしてあげるね」

【妃愛】

「汗だけではなく、気持ちいいのも、いつもよりたくさん出ていた気がするしね」

【妃愛】

「……と思っていたのに、どうしてあれだけいっぱい出しておいて、おにいのおにんぼはまた大きくなっているのかな？」

【妃愛】

「私が後ろにいる間は気づかれないと思っていたのかな？」

【妃愛】

「元気におつきくなっているおにんぼが鏡に映ってしまっているよフッフ」

【妃愛】

「もうゝ、私のおなかがいっぱいになるほど出したのに、お兄は元気だなあ」

【妃愛】

「でも、私とくっついてお兄がそんな風になったのだとすればとても嬉しいので、実は今すごく喜んでいたりするてへへ」

【妃愛】

「私の身体だけじゃ、空っぽになるほど満足できなかったかあ……ちよっぴり責任感じるね……」

【妃愛】

「あっごめんウソウソ、今のはお兄を困らせるためにゆった」

【妃愛】

「むしろいま困らせる発言をしてしまったお詫びに、お兄を気持ちよくして、今度こそ空っぽにしてあげたい」

【妃愛】

「ダメかなあ？」

【妃愛】

「元気なおにいのおにんぽを見て、私はいまでもしてあげたいのだけど」

【妃愛】

「お風呂場でするのって、いけないことしてる感ましましで、私自身からだが火照ってるのもあるしね……」

【妃愛】

「お兄の出してくれたものが、おなかの中で熱を帯びてる」

【妃愛】

「お兄に尽くしてよろこばれない」

【妃愛】

「後ろからごめんね……えへへ、お兄の、さっきと同じくらいまだ硬い」

【妃愛】

「あっでも、まだちょっとべたついてるね……」

【妃愛】「一度洗ってからのほうが……あ。今こそお兄に尽くしてあげるとき」

【妃愛】「えへへ、お兄は動かないでね」

【妃愛】「あっおちんちん顔にあたっちゃった」

【妃愛】「うへへおちんちに頼ずり頼ずり」

【妃愛】「んー、ちょっと下品だったかな、えへへ」

【妃愛】「ごめんね、引いてない？　ちょっとでもお兄が興奮してたら嬉しい」

【妃愛】「先にたまたま舐めちゃうね……えろっ」

【妃愛】「（れろお……れろっ、れろっ、ちゅうっ……れろ、れろお……）」

【妃愛】「気持ちいい？　くすぐったい？」

【妃愛】「お兄のたまたま舐めると、おにんぽピクピク反応するので嬉しい」

【妃愛】「今度はおにんぽ手でこすりながら舐めたげるねー」

【妃愛】「（ちゅっ、ちゅぶっ、んちゅっ……れろ、ちゅっ……れろお）」

【妃愛】

「えへへ、イキそう？ そんなに気持ちいい？ お兄が喜んでくれるの好き……」

【妃愛】

「お兄がイキたいのなら、好きなときに出してしまってもいいよ？」

【妃愛】

「あ、さっきたくさん出したばかりだから、そんなすぐには厳しい？」

【妃愛】

「へへへお兄の性欲を他の女の子へ向けさせないためにも、お兄が一日に出せる分量は毎日私が搾りとってしまいたいぜ」

【妃愛】

「搾って搾って出せなくなるまで搾るために、お兄の興奮するツボは心得ておかないとね！」

【妃愛】

「ほあ……ここあいいんあっえ……」

【妃愛】

「（れろ、れろお……れろ、れろっ、れろお……れろっ）」

【妃愛】

「ちゅっ……えへへ、どうかな、エロいかな……お兄から見られてるのもちよつと意識して舐めてみた……」

【妃愛】

「私はお色気成分が不足しているのは自覚しているからね！」

【妃愛】

「ただでさえお兄は、私の表情だったり仕草だったりに異性らしさを感じることは少ないだろうから……」

【妃愛】

「これは卑屈になっているのではなく、家族としてずっといっしょに過ごしてきたのだからやむを得ないよね」

【妃愛】

「その分、愛しさだったり、お互いをよく知っていたりという役得はあるわけだし」

【妃愛】

「というわけで、お兄が私にエロさを覚えた数少ない機会は、見逃さずモノにしていこうと思います！」

【妃愛】

「お兄、こういうのはどうかなあ？」

【妃愛】

「はいおっぱいサンド、ひよひよ」

【妃愛】

「って、ここでひよひよなどと言ってしまいうからダメだというのに、つい楽しさを求めてしまう自分が嫌い！」

【妃愛】

「ああっ！ 案の定、お兄のおにんぽがかわいらしいサイズのおちんちんに戻りつつある！ せっかく寄せてあげて包みこんだというのに！」

【妃愛】

「これはいかん、これはいかんですぞ」

【妃愛】

「あ、あむんっ！」



【妃愛】

「んむんむ、んむう……んちゅ、ちゅぶつ、んちゅう……ちゅつ、んちゅつ、んむう……」

【妃愛】

「ちゅうつ、んむ、ちゅつ、じゅるう……じゅるつ、じゅぽつ、じゅぶつ……んちゅ、ちゅうつ……」

【妃愛】

「ぶはっ……えへへ、おにいのおちんちんがおにんぽに逆戻り」

【妃愛】

「お兄はお口でされるのが好きなのかな？」

【妃愛】

「れろつ、れろ、れろつ……ちゅつ、れろつ……んむ、あむつ……ちゅつ、れろつ……」

【妃愛】

「んちゅつ、ちゅぶつ、じゅぶうつ……んちゅ、れろつ、ちゅつ、れろお……ちゅつ」

【妃愛】

「んむつ、ちゅうつ……はあつ、お兄のおちんちん綺麗になったかなあ？」

【妃愛】

「んふふふつばがいっぱい付いた状態で手でされるのが気持ちいいというのは、もう把握しているよ」

【妃愛】

「手でこすりながらたまたま舐めたげる……れろつ、れろお……」

【妃愛】

「んむちゅ……れろつ、れろお、ちゅつ、れろつ……ちゅつ、れろお……」

【妃愛】

「自分でしておいてなんだけど、これ、すごくえっ  
ちだね……もっと、いっぱいしたげたくなる……  
…」

【妃愛】

「おにいの……おにいのおちんちん……れろっ、  
ちゅうっ……おにいのおちんちん、好き……れ  
ろっ、ちゅう……」

【妃愛】

「おにい、好き……愛しい……好きな人の大切な部  
分で、こんなに愛しく思えるんだあって……へへ  
……ちゅう、れろっ……ちゅう」

【妃愛】

「自分がおにいのここに、こんなえちいことしてる  
のにドキドキする……」

【妃愛】

「関係が変わったんだって……これから一生おに  
いのそばにいていいんだって実感できる……」

【妃愛】

「だからおにいにしてあげるのちゅき……大ちゅき  
……れろっ」

【妃愛】

「ちゅう、れろっ、あむっ……ちゅぶっ、れろっ、  
んむっ、ちゅぶっ……」

【妃愛】

「んむちゅう、ちゅぶっ、れろっ、じゅぶっ……れ  
ろっ、ちゅう、れろっ、じゅるうっ……」

【妃愛】

「んじゅぶっ、ちゅう、ちゅううっ……ちゅう、  
じゅぶるっ、んじゅっ、れろっ、じゅぶうっ」

【妃愛】

「じゅぶっ！　じゆるうっ！　んじゅぶ、じゅるっ、じゅぶるう……んじゅっ、じゆるっ、じゅるるうっ！」

【妃愛】

「んむっ、ちゅっ……おにいのおちんちんピクピクしてる……えへへ、綺麗にするって言うておいてなんだけど……もう1回出しちゃおっか」

【妃愛】

「んちゅっ、じゆるっ、じゅぶるっ、んじゅうううう……じゅぶっ、じゅぽっ……わらひのくちのなか……らひていいからへ……んじゆるっ」

【妃愛】

「んじゅうううう……んじゆるっ、ぷはっ、おにいの、気持ちいいの飲みたい……いっぱい出してね……んじゆるっ、じゆるっ、んじゆるううっ！」

【妃愛】

「じゅぶっ、んじゆるっ、じゆるっ、んじゆるっ、じゅるうっ！　じゆるっ、じゅぶっ、じゆるうっ！　じゆるんっ！」

【妃愛】

「じゅぶっ、んじゅぶっ！　じゅうっ、んじゅうっ！　じゅうっ、じゅぶるっ！　じゆるんっ！」

【妃愛】

「んじゆるっ！　じゅるううっ！　んむっ、んっ、じゅぶっ！　んじゅっ、じゅうっ！　んむっ、んむううっ！　じゆるっ、じゅぶんっ！」

【妃愛】

「んむうっ！？　んむっ、じゅううううううっ！　くっ、じゅるううううっ！　くっ、くっ、くっ……」

【妃愛】

「んぐっ、」くっ……ちゅっ、ちゅうううっ……  
じゅうううっ……ん、」くっ……じゅうっ！  
じゅるうっ！」

【妃愛】

「んむっ、むっ、ぷはっ……んぐっ、」くっ……お  
にいの、いっぱい口の中、出た……」

【妃愛】

「ぜんぶ飲んじやったよ……？　へへへ、まだ出る  
かなあ？　出てきたらぜんぶ舐めとってあげるか  
らね」

【妃愛】

「気持ちよかった？　すごく？　えへへ、おにいに  
褒めてもらえると嬉しいなあ」

【妃愛】

「最近ほめほめしてくれるけど、付きあう前のお  
にいはあんまり私を誉めてくれなかったからね」

【妃愛】

「でもおにんぽ気持ちよくしてあげたときは、いつ  
つも誉めてくれたので、これからもいっぱいす  
るうー、がんばるうー！　ほめてほめてー！」

【妃愛】

「というわけで、せっかく綺麗にしてあげたのに、  
またべとべとになってしまったので、今度こそ石  
鹸で洗おう」

【妃愛】

「手にたっぷり石鹸をつけて……フッフお兄、どこ  
へ逃げようとしているのかな？　この狭い浴槽に  
逃げる場所なんてないよ？」

【妃愛】「出したあとが敏感になっているのはもう知っている  
るので」

【妃愛】「そこにこの石鹸をつけたぬるぬるのお手でもみ  
くちやにしたら、お兄はどうなってしまうのかな  
あ？」

【妃愛】「また出したくなったら気落ちよくしてあげるか  
ら」

【妃愛】「それ、観念するがいい、お兄！」

【妃愛】「はい、キレイキレイしましょうね、よちよち  
」

【妃愛】「おにいが喘いでる喘いでる、かわいい」

【妃愛】「これからもいっぱいお世話してあげるからね、お  
兄」

04ひよこの正体はぎゅう魔王

【妃愛】

「はあゝ」

【妃愛】

「やっぱり一日の終わりにお布団の中でお兄に抱っこしてもらうのは最高だねえ」

【妃愛】

「お仕事の疲れもふっとんでいくよ、布団の中だけに……」

【妃愛】

「なんて私が癒されているというのに、お兄をとっても疲れさせてしまつてごめんなさい」

【妃愛】

「ちよっと悪ノリしすぎたなと反省しています」

【妃愛】

「えっちをするとお兄の反応が身体でわかるから、嬉しくなつてついつい調子に乗つてしまい……」

【妃愛】

「自分だけが癒されて、お兄を疲れさせてしまったよ。はあー」

【妃愛】

「でもねあの、言い訳したいのではないんだけど……お兄とのえっち、純粹にえちなことしたいのもあるんだけど、それとは別にお兄とのじゃれあいが楽しくて」

【妃愛】

「うーん、なんだろう」

【妃愛】

「童心に返つて、お兄と遊んでるかんじするんだあ」

【妃愛】

「今さらできないことをさせてもらってるというか……」

【妃愛】

「うん、まあ、だから……お兄とのえっちが好きなんだ」

【妃愛】

「気持ちいいし、楽しいし、愛しい」

ト書き… 抑揚を意識して

【妃愛】

「って言っても、えちちな気持ちがあるのには変わらないが、お兄を疲れさせていい理由にはならないのけどね！」

【妃愛】

「ふう。こんなに性欲旺盛な妹に育ってしまったてめんなさい」

【妃愛】

「でもこれからもどんどん求めてしまうと思うので許してくだちやい」

【妃愛】

「うーん、ちょっと前までは私がお兄を甘やかしていたのに、今では私がお兄に甘えている……甘やかされている」

【妃愛】

「以前お兄を抱っこして母性を感じたけれど、最近はお兄に抱っこされるほうが好き……とうき……」

【妃愛】

「本当にね、すっごく役得だと思うんだあ」



【妃愛】

「だってお兄ちゃんに抱っこされて温かさを覚える妹はいても、ときめいたりまではしないでしょ」

【妃愛】

「恋人に抱きしめられて胸が高鳴る女の子はいても、家族としての安心感まではないわけでしょ」

【妃愛】

「私は安心とときめきという2つの愛情を同時に与えてもらってるんだあ」

【妃愛】

「こんなに贅沢なお相手は、探したってそうそういないと思う」

【妃愛】

「お兄が恋人になってくれた私だけの特権」

【妃愛】

「ありがとうお兄、大好き」

【妃愛】

「えへへへ、自分で言っていてドキドキしてしまった」

【妃愛】

「でもこうしてぎゅうしてもらっている間は、すごくまったりとした幸せで満たされるので、やっぱり私は贅沢者だあ」

【妃愛】

「だからお兄にぎゅうしてもらうのはすごく好き」

【妃愛】

「今日も妃愛は一日幸せでした」

【妃愛】

「お兄の存在に感謝しつつ……また明日目が覚めたときも、私をぎゅうしていてね」

【妃愛】

「今日は一段と安らかに眠れそう」

【妃愛】

「それじゃあお兄、おやすみなさいのちゅう」

【妃愛】

「してくれたら大人しくもう寝るのでちゅうして」

【妃愛】

「ん？ うん、まあ、ちゅうしたら、またしたくなっちゃうかもしれないけど……えへへ」

【妃愛】

「でも今日はお互いに限界まで果ててしまったと思うので、するとしてもまた明日かな！」

【妃愛】

「そのときはさっき以上に……いっぱいお兄に尽くすね」

【妃愛】

「さ、それじゃあおやすみなさいの。して」

【妃愛】

「んっ」

【妃愛】

「んふ、んふふふ」

【妃愛】

「お兄のちゅう、ちゅき」

【妃愛】

「おやすみ」

05ひよこの気持ち

【妃愛】「おにいく、なに見てるの？ えちちなゲームの購入画面？」

【妃愛】「あっ驚かせてしまったかな、ごめん」

【妃愛】「まあごめんとはいつつ、お兄が何の画面見てるかこっそり覗くつもりで忍び寄ったから、ばりばり故意なのだけでも」

【妃愛】「それでこれはなんのゲーム……あ、音声……作品？」

【妃愛】「ほえー、お兄こういうの好きなんだあ」

【妃愛】「いやまあ私という恋人がいたところで、二次元のえちちを求めるのは当然くらいに思っていたので、その点については全く気にしてないのだけどさ」

【妃愛】「お兄と兄妹のままのやりとりができるのは嬉しいし」

【妃愛】「でも音声作品っていうのはなあ……」

【妃愛】「表紙に騙されてページ開いただけ？ うんまあ表紙の絵はかわいいねえ」

【妃愛】「でもまだちょっと半信半疑ー」

【妃愛】「疑わしきはバスケットボールー」

【妃愛】

「えちなイラストでお兄が燃え盛るのは微笑ましいけど、声オンリーでえちな気分になるのは……なんか……ちよつと……その、声だけでっていうのが」

【妃愛】

「ただ、だってお兄は、私の声単体だと絶対にえちな気分にはならないだろうし……私、声のお仕事というか……私だって、自分の声でお兄に萌えてほしいというか……」

【妃愛】

「その、萌えるだけではなく、やっぱり自分の声でお兄がえちな気持ちになってくれたら嬉しいというか……」

【妃愛】

「えっ小泉妃愛はみんなのもの？ お兄が独り占めしていいものではない？ それは私が言いだしたこと？」

【妃愛】

「そそっ、そおなのだけどそおなのだけどヴヴヴヴヴ」

【妃愛】

「そんな正論で感情的になっている妹を言い負かして、それでもお兄は立場の弱い妹を恋人にしている自覚があるのかー！」

【妃愛】

「私だって頭ではわかっているのだけど、こと声の話になるとやっぱり悔しい気持ちはあるんだよう、シット！ シッター！ シッテスト」

【妃愛】

「私だって私だって、お兄にこっそり自分の音声作品を買ってほしい！」

【妃愛】

「そもそもお兄、私の音声作品の存在すら知らないよね」

【妃愛】

「あるよ！ ささやきボイスみたいなものは発売されているし、販促動画は公開されているよ！ 私としてはなく、キャラとしての声だけれども！」

【妃愛】

「お兄が私に内緒でこっそり購入してくれていたなら嬉しい……けれど、そんな事実もないよねきつとぐすん」

【妃愛】

「かといってプライベートな時間に、私のキャラとしての声や小泉妃愛として本気出した声を、お兄個人に聞かせるのは声優判定アウトだし……うううううううー！」

【妃愛】

「えーとこの音声作品は……なにに「天使の耳かき」……また天使か！ 「脳が犯される耳舐め作品の決定版」……ふうーん、耳かきものかあ」

【妃愛】

「あっ！ なーんだ、それならとても簡単なお話だった」

【妃愛】

「小泉妃愛の音声作品としてではなく、お兄の妹としてリアル耳かきをしてあげればいいだけのお話だったね！ 声優判定セフセフ」

【妃愛】

「というわけで、来いよ」

【妃愛】

「今回お兄に拒否は許されません。妹に心的外傷を与えた責任をとってください。耳かきさせてくださいお願いします。なんでもします、この通りです」

【妃愛】

「あ、させてくれるんだ？」

【妃愛】

「わあい、お兄やさしい！ 大大大ちゆき！ いかなるときもちゆき」

【妃愛】

「言うて、人に耳かきなんてしたことないから緊張するね……」

【妃愛】

「さ、お兄。ここへ頭をのせて」

【妃愛】

「うはー！ 期せずしてお兄にひざまくらー！ 母性を覚える、ときめくうー！」

【妃愛】

「ええー？ こんなにときめくなら、もっと前からお兄に耳かきさせてもらえばよかった」

【妃愛】

「これは棚からぼたもちだなあ。私、みたらし団子が好きだけど。よちよち。よちち」

【妃愛】

「それはいざ耳かきをするわけだけど、すべてが初めてなので、痛かったら言ってね」

【妃愛】「しかし、うーん……残念ながら、お兄の耳の中は綺麗だ」

【妃愛】「でも私の目的はお兄の耳を綺麗にするのではなく、お兄に耳かきをすることなので、耳かきでくすぐるね」

【妃愛】「どうかな、くすぐったいかな。痛かったらゆってね」

【妃愛】「ちなみにこの耳掃除は和泉妃愛として行っていますが、お兄に私のささやきを聞いてもらうのが目的なので、終始声をかけつづけます。声優判定セフセフ」

【妃愛】「そういえば……私もだけど、お兄、昔はお母さんに耳かきしてもらってたよね」

【妃愛】「今は自分がその役を務めてると思うと、過剰なまでにときめくぅ」

【妃愛】「えへへ、まだ始めたばかりなのに、お兄の耳かき楽しいゝ母性母性」

【妃愛】「まだお母さんみたいに上手くはできてないだろうけど、いずれお兄からおねだりさせてみせるからねゝ」

【妃愛】「お兄の耳好きぃ、お兄の耳の形好きぃ、お兄の全部が好きぃ」



【妃愛】

「小さい頃ね、耳かきの順番、いつもお兄が先だったよね、あれちょっとズルいなって実は思ってた」

【妃愛】

「あ、やあ、怒ってはない、怒ってはないよ。怒ってないというか気にしてはなかったよ」

【妃愛】

「まあ単に生まれた順ってだけだしね。「今日は妃愛が先ね」って日もあったし。でもまあ、キホンはお兄からだったよね」

【妃愛】

「お風呂もお兄が先に入れてもらってたしね」

【妃愛】

「ゆーても、あれはお父さんとお母さんがお兄で、お母さんとお父さんが私で、お父さんとお母さんが先に入るのがお父さんって順番決まっただけだよ」

【妃愛】

「は？ いっしょに入ってたころあった？」

【妃愛】

「いいい今その話しゆるなしないで、この話恥ずかしい終わり」

【妃愛】

「あーだめだめこっち見上げないで、いま耳かき中なんだから」

【妃愛】

「はいっ！ はいっ！ こっちの耳終わり！ 逆！ 向こう向いて！」

【妃愛】

「えへへ、私の足の上でお兄の頭が動くの好きい  
〜」

【妃愛】

「お兄の頭の重みを感じるう〜、存在を感じるう  
〜」

【妃愛】

「もはや説明すら不要に思えるけど、私は今みたい  
にお兄と家族を感じられる時間が好きだよ」

【妃愛】

「でも今ではときめきも覚えられるので幸せむぎゅ  
うううううう」

【妃愛】

「あつごめん、耳かきの邪魔してしまったね」

【妃愛】

「でもねー、自分でも驚くくらい幸せで満たされて  
いてうへへへ」

【妃愛】

「お兄とこれからもずっとこんな時間を過ごせるう  
〜、末永くいっしょに暮らせるう〜」

【妃愛】

「今後は一人になる不安を抱かずに生きていけるう  
〜」

【妃愛】

「はあ……自分の人生が上手くいきすぎて怖い……  
心境的にはもはや余生」

【妃愛】

「これからは山も谷もなくてよいので、お兄とただ  
ただ幸せな時間を過ごすんだい」

【妃愛】

「お兄大とうき、てへ」

【妃愛】

「はあゝ、先ほどから気持ちが高まりすぎて、耳かきが雑になっていたらごめんねお兄、痛かったらゆってね」

【妃愛】

「え、むしろすぐつたい？」

【妃愛】

「口ではテンション高いくせに、おっかなびっくり？」

【妃愛】

「ただただって、耳って敏感な部分だし、万が一強く引っ掻いたら痛いかと思って……」

【妃愛】

「お、お兄、笑わないで！　ちょ、母性台無し！　おにーいーっ！　もーっ！」

【妃愛】

「ううう数秒前まで私が母性を感じていたのに、なぜかお兄に笑われている……」

【妃愛】

「仕方ないよ、何事も初めての経験は上手いかないときもある……う、ううううー！」

【妃愛】

「お、おによれお兄、大好きなお兄の身体を大切に扱う、妹の健気な心を笑いおって……！」

【妃愛】

「まだぜんぜん耳かきしてないけど、ちょっと休憩して、今から悪戯をします」

【妃愛】

「逃げようとしてもそうはいかんぞ」

【妃愛】

「いかに私が非力と言えど、ここまでしっかりと抱えこめばお兄も逃げられまいフッフ」

【妃愛】

「へへへ、無防備なお兄の耳」

【妃愛】

「ふーっ……」

【妃愛】

「えへへびつくりした？ くしゅぐったい？」

【妃愛】

「うううん母性復活、お兄がかわゆい」

【妃愛】

「お兄がまいったするまでしゆる……」

【妃愛】

「（ふっ、ふーっ……ふっ、ふづっ……ふーっ……）」

【妃愛】

「息吹きかけだけじゃ……物足りないなあ……」

【妃愛】

「ちゅっ……れろっ」

【妃愛】

「えへへお兄がびくってした」

【妃愛】

「私はいつも、お兄に耳を責められてわからされてしまうので、今日はお返し……」

【妃愛】

「（れろ……れろ、れろっ……れろ、れろお……れろっ）」

【妃愛】

「えへへ、我慢できないくらいくすぐったいのは、私もよく知ってるから……」

【妃愛】「妹の健気な心をくすくす笑った事実をよく反省してほしい」

【妃愛】「うんうん、お兄がわかってくれたのなら私は満足」

【妃愛】「ここからは優しく耳かきしてあげるね」

【妃愛】「えへへ、お兄の耳かき楽しい、お兄の頭を膝にのせてるの愛しい」

【妃愛】「しばらくはお兄の耳かきにはまってしまいそうだけど、耳かきって、しすぎないほうがいいとも聞くよね」

【妃愛】「1週間に一度くらいかな、2週間くらい間空けたほうがいいかな？」

【妃愛】「これからは自分で耳かきしてはダメだからね」

【妃愛】「私にお世話させてね」

【妃愛】「ありがとう、お兄。大チユキ」

【妃愛】「はい、それじゃあ今日はここまで」

【妃愛】「綺麗綺麗になりました」

【妃愛】「お兄、お疲れ様。次回はまた2週間後のお楽しみ……え、私？」

【妃愛】

「私の耳かきをお兄がする……？」

【妃愛】

「い、いいよお、私は普段から綺麗にしてるし……その、最近したばかりだし……」

【妃愛】

「やっ、耳さわっちゃだめえ！ えっ、だめだめほんとだめ」

【妃愛】

「だって、さっき私にされてるお兄を見てるだけで、くすぐったそうだったのに……お兄に同じことされたら、私、我慢できない」

【妃愛】

「やっ、だめえ！ やだやだお兄、押したおしちゃダメ……あっ」

【妃愛】

「あ、あによ……さっきは調子に乗ってちゆみませんでちた……反省してましゅ」

【妃愛】

「なので耳だけは許し……あっ、ひゃあん！ 舐めるのだめえ！」

【妃愛】

「もうこれ耳かきじゃないよお……やんっ！ もお、おにいいいい！」

【妃愛】

「うう、まさかこんな仕返しを受けてしまうとは……」

【妃愛】

「でも……お兄がこんな風に襲ってくれるとは思わなかったので、口では抵抗してしまったものの、いま妃愛はとてもドキドキしています」

【妃愛】

「今度から襲ってほしいときはお兄に耳かきする  
ね」

【妃愛】

「お兄の耳かき、大好き」

06すやひよ



【妃愛】

「んー……すうー……」

【妃愛】

「すうー……」

【妃愛】

「んむう……すう……」

【妃愛】

「おにい……とうき……」

07おはひよ

【妃愛】

「おにい」

【妃愛】

「おにいー、朝だよお兄」

【妃愛】

「えへへ、おはよう……まだちょっと眠そうだね」

【妃愛】

「私？ 私はちよつと前に起きて……お兄の顔しばらく眺めてた」

【妃愛】

「あとごめん、実はいつも起きてる時間までにはあとちよつとあるんだけど、お兄といちゃいちゃしたくて、少し早く起こしてしまったよ」

【妃愛】

「はあー、お兄に布団の中でぎゅうされるのときめくうー」

【妃愛】

「このまま永遠に二人でごろごろしていたい」

【妃愛】

「以前の私はもうちよつとしっかりしていたと思うのだけど、今ではすっかり墮落してしまったねえ」

【妃愛】

「もう一人では寝られなくなっちゃったなあ……」

【妃愛】

「まあ幸い、いまとても大切に扱われている私は、お泊まりの仕事などはないので、毎日お兄のいるおうちに帰って、こうしていっしょに寝られるのだけど」

【妃愛】

「お兄は一人で寝たいときある？」

【妃愛】

「そんなときは遠慮せずに言ってね」

【妃愛】

「一日くらいは我慢できるので」

【妃愛】

「そんな日は部屋で一人ひよこの抱き枕を抱いて寂しい夜を過ごすので」

【妃愛】

「でも一日以上は我慢できないので、ひとりで寝たい日が続くときは教えてくだちやい、えへへ」

【妃愛】

「さて、それでは今日もたっぷリアニルギーを注入していただいたので、朝の支度を始めようかな」

【妃愛】

「お兄もそろそろ朝の支度――――まだ眠い？」

【妃愛】

「もー、お兄に甘えられると、平日でも寝かせてあげたくなってしまうなあ」

【妃愛】

「ちゅうすれば目を覚ましてくれるかな？」

【妃愛】

「んっ」

【妃愛】

「へへへ世間にいる普通のカップルみたいで照れちゃうね、お兄ちゅき」

【妃愛】

「んーでも確かに、ここのことろずるずる起きる時間が後ろへずれてきてしまっているからなあ……」

【妃愛】

「よし！ 明日は久しぶりに、気合いを入れてお兄を起こそう！」

【妃愛】

「明日は甘々の私ではなく、お兄の恋人にしてもら  
う以前のように、鬼の妃愛がお兄を起こすよ」

【妃愛】

「いつまでも寝ていたら千尋の谷へ突きおとすよ」

【妃愛】

「今週はお兄を厳しく起こす週間だ！」

【妃愛】

「あんまり朝の支度が遅れると、出かける前に玄関  
でいちゃいちゃする時間が減るからねー」

【妃愛】

「明日からがんばろうね」

【妃愛】

「立ちあがレッツ・ゴー！」

【妃愛】

「あさー！ あさあさあさー！ あさあさおにー！  
あさおにー！」

【妃愛】

「負けないでお兄！ 挫けないでお兄！ ここでお  
兄のカッコいいところを私に見せて！」

【妃愛】

「枕に甘えてはお先まっくらだ！ 一瞬で布団を  
ふっとばせ！」

【妃愛】

「『兄はお布団の中にあり！ 全軍突撃じゃああ  
あー！』」

【妃愛】

「こっち向いてー！ 向かないでー！ でもやっぱ  
りお兄の顔見たいからこっち向いてー！」

【妃愛】

「えへへお兄の顔ちゅき……おはよう」

---

【妃愛】

「ごめんね、騒ぎすぎたかな」

【妃愛】

「でもさすがのお兄もこれで起きたよね！」

【妃愛】

「というわけでがんばって起きたお兄には、ごほうびのちゅう」

【妃愛】

「んっ」

【妃愛】

「お兄からも、お兄をがんばって起こした私に」

【妃愛】

「ごほうびをくだちゃい」

---

08お兄が風邪を引いてしまった日のひよこ

【妃愛】

「お兄」

【妃愛】

「様子を見に来たよ」

【妃愛】

「あ。これ、お水いっぱい買ったので、枕元へ置いておくね」

【妃愛】

「あと、りんご磨るね。食べられるのなら食べてね」

【妃愛】

「どう？ まだしんどい？」

【妃愛】

「うつるのなんて、お兄は心配なくていいよ」

【妃愛】

「もちろん私自身の体調管理は気をつけるけど、昨日だっていっしょにごはん食べてるし、病気の家族を看病するのは当然の義務です」

【妃愛】

「まあ、お仕事休んじやうと多くの人に迷惑をかけるので、お兄が心配で心配で仕方ない恋人の顔は覗かせないでおく」

【妃愛】

「なので、あくまで家族として、妹として、お兄の病気が治るまでは、私にお世話させてね」

【妃愛】

「今日は妹モードなので、ちゅきちゅき言いたいのも我慢する」

【妃愛】

「もちろんぎゅうやちゅうを求めたりもしません」



【妃愛】

「でもうん、昨日の夜は……久しぶりに一人で寝たので、ちよっと怖かった」

【妃愛】

「お兄がそばにいないだけで、あんなにベッドが広く感じるとは、自分でもびっくり」

【妃愛】

「すっかり弱虫になってしまったね」

【妃愛】

「いずれはお仕事でお泊まりしたり、お兄だって一人で旅行したいときがくるかもしれないから、ひとりで寝るのにも心の準備をしておかないとね」

【妃愛】

「あ、でも、わざわざ別に寝ようとは思わないので、風邪が治ったら、これからもいっしょに寝かせてくだちやい。えへへ」

【妃愛】

「手を握るくらいはいいかなあ」

【妃愛】

「そのくらいは兄妹でもするよね」

【妃愛】

「こうして手を握っていれば、お兄が元気にならなかなあ……」

【妃愛】

「もしちゅうしたら治るとすれば、妹でしかなかったころの私はどうしてたかなあ」

【妃愛】

「確実に治るっていう理由付けがあれば、妹であっても、お兄に初めてのキスしちゃってたかな」

【妃愛】

「それをファーストキスに含めるかはわからないけどね」

【妃愛】

「でも、うん」

【妃愛】

「したら確実に意識はしちゃうよね」

【妃愛】

「なんて、お兄が病気で苦しい思いをしているのに、ひとりで仮想の話に浸ってしまっでごめんね」

【妃愛】

「こんなにしゃべりかけて辛い？ 一人でいるより楽？ それならいいんだあ」

【妃愛】

「早くお兄が元気になるといいなあ……」

【妃愛】

「今日の夕ごはんは何がいい？」

【妃愛】

「お兄が食べたいものを、身体がよくなるように作ってあげるからね」

【妃愛】

「うどんがよければ卵を落として生姜をたっぷりおろして入れてあげる」

【妃愛】

「おかゆがよければ梅干しをのせてあげるから、しっかり身体を温めようね」

【妃愛】

「お兄がしてほしければ添い寝もするけど……うん、きつとお兄は私にうつしたくないと言ってくれるよね」

【妃愛】

「風邪が治ったらいっぱい甘えさせてね……」

【妃愛】

「あのね、お兄」

【妃愛】

「お兄には早く元気になって欲しいし、お兄が風邪を引いて喜んだりする気持ちは全くないんだけど……」

【妃愛】

「子どもの頃、私たちが風邪を引いたときは、お父さんとお母さんが看病してくれたよね」

【妃愛】

「そのときは子どもで……こんな風にお兄のお世話はできなかったけど」

【妃愛】

「あのころは忙しくて……忙しいの言い訳にして、お兄の様子を見に部屋へ行くことすらしなかったけど」

【妃愛】

「私が風邪を引いたらお仕事に穴を空けてしまうからって、そんな理由で自分を正当化して、大切なものを疎かにしていたけど」

【妃愛】

「私が風邪を引いたとき、お兄は、私の部屋まで来て、おでこに手を当てて、そのあとで手を握ってくれたよね」

【妃愛】

「覚えてるんだ、あの日のこと」

【妃愛】

「大きくなって、お兄はすっかり健康になって、あまり風邪も引かなくなって、風邪を引いたときでも今日みたいに寝込んだりすることはそうそうなかったけど」

【妃愛】

「今日はこうして、お兄のそばで、お世話をしてあげられるのが嬉しい」

【妃愛】

「お兄が心配だから、私は私にできる精一杯のことをするので、早く良くなってね」

【妃愛】

「私は、最低の妹だなあ」

【妃愛】

「大切なお兄が病気で苦しんでいるのに、嬉しいだなんて」

【妃愛】

「はあ、妹失格だあ」

【妃愛】

「ネットだと「小泉妃愛は兄思い」だなんて言われているけど、とんだ過大評価だよ」

【妃愛】

「メッキが剥がれてしまったね」

【妃愛】

「なので私は、やっぱり恋人としてお兄のお世話をするね」

【妃愛】

「恋にうつつを抜かして仕事に穴を空けたら声優失格ではあるけども」

【妃愛】

「妹として接している間に、これだけ密着してしまったら、このあとで同程度の接触をしても、それは妹だった私の責任かなあ」

【妃愛】

「なのでここからは、お兄の恋人として、より甲斐甲斐しくお世話をするね」

【妃愛】

「大好きな大好きな私のお兄」

【妃愛】

「身体が完全によくなったら、いっぱいぎゅうして、いっぱいちゅうしてね」

【妃愛】

「えちちなことも、いっぱいしようね」

【妃愛】

「さて、それでは夕ごはんの支度をしてくるよ。りんご、こぼれないように椅子へのせておくね。食べられたら食べてね」

【妃愛】

「あ、夕ごはんができるまで少し眠る？」

【妃愛】

「風邪を引いているときは寝るのが一番だからね」

【妃愛】

「うん、じゃあゆっくり……」

【妃愛】

「おやすみなさい」

## 09ある幸せな会話

【妃愛】

「おにい」

【妃愛】

「おにいー、おにい。今日はこのあとの予定がまるっと空いてしまっているの、夕方までまるっとお兄に甘えてしまってもよいでしょーか！」

【妃愛】

「えへへ、今日はねー、実はねー、お兄と話したいことあるうー」

【妃愛】

「お兄といっしょに見たいサイトがあって……これなんだけど」

【妃愛】

「あの、前にね。お兄がその、私に素敵なドレスを着せてくれたので。そのあと、貰うとまで言ってくれたので」

【妃愛】

「今まで目にしても視界から遠ざけていた、ブライダル情報サイトなどを昨日の夜のぞいてしまいました。てへへ」

【妃愛】

「あーうん、意識して避けてた部分はあったねえ」

【妃愛】

「私には縁のないものと思っていたし、むしろ……自分がそれを見守る場面ばかり想像してしまっ、ちよっぴり暗い気持ちになったりもしたので」

【妃愛】

「自分で勝手に観て、ひとりで勝手に落ちこむって、ちよっぴり痛い子でしたけども、私」

【妃愛】

「でも今の私には、お兄という、生涯とともに過ごしてくれる大切な人がいるので！」

【妃愛】

「昨日の夜ね、ドキドキしながらサイトを覗いてしまったよ」

【妃愛】

「どんなものか想像もせずに、ページを開いてしまったわけだけど、まあその……素敵でねえ」

【妃愛】

「なんかね、そんな未来を予想したこともなかったの、どハマリしてしまっただけ」

【妃愛】

「もうそのサイトに書かれてる文字の一つひとつがことごとく胸に刺さってしまっただけ……なんかもうきゅんきゅんしてしまっただけ」

【妃愛】

「もちろん想像の中の私の隣にいるのは、お兄以外に考えられないので、お兄といっしょに見られたらなあ……って」

【妃愛】

「なのでお願いにきました」

【妃愛】

「今日の午後は、私とお話ししながら過ごしてください」

【妃愛】

「えへへ、ありがとう」

【妃愛】

「お兄ちゅき、今日はいっぱい甘えるう」



【妃愛】「あのねあのね、このサイトなのだけど、見て見て」

【妃愛】「ほんととは本のほうが二人で見やすいかなって思ったんだけど、本屋さんで結婚情報誌を買うのは少し怖いからね」

【妃愛】「お兄と二人きりで内緒の結婚式するんだあ」

【妃愛】「あっほら見て！　まず私もう、ここからときめいてしまったのだけど！」

【妃愛】「王道のクラシックなウェディング、カジュアルなリラックスウェディング、今だからこそその和風ウェディング、どれもときめくぅー！」

【妃愛】「お兄がお兄が、こんなタキシードを着たときには、私ときめいて鼻と口から呼吸できなくなって耳から呼吸してしまいそうなのだけでも！」

【妃愛】「えーっ、似合うよ絶対似合う！」

【妃愛】「お兄にタキシードは似合いますぅー！」

【妃愛】「和服もねー、お兄に紋付袴もいいなって思ったんだけどねー」

【妃愛】「でもやっぱり、前にドレス着た姿をとて誉めてもらえたので、またお兄の前でドレス着たいー！」

【妃愛】「白いタキシード着たお兄に手を引いてもら  
うー!」

【妃愛】「えへへ、想像するだけで幸せだなあ……」

【妃愛】「あっごめん、ちょっと待って」

【妃愛】「ちがくてちがくて、お兄と楽しいお話しがした  
かったですよ」

【妃愛】「こんなしんみり泣いてる場合ではなくて、へへ  
ちよっと怖いなあ、私」

【妃愛】「というかまだテーマの話しか、それも5分も話し  
てないのにこれでは、先が思いやられるね」

【妃愛】「でも本当に、想像するだけで幸せで……じるとき  
てしまった」

【妃愛】「私、お兄の妹でよかった……大好き」

【妃愛】「えへへ、先ほど甘えていいと許可をいただいたの  
で」

【妃愛】「今日はとても甘えたいので」

【妃愛】「あによ、お兄」

【妃愛】「もっとくつつきたいので、そっちのソファーへ移  
動してもいいかなあ？」

【妃愛】

「うん、ありがとう……ごめんね資正、ちよっぴり  
ケージの中で大人しくしててね」

【妃愛】

「えへへ、お兄の肩借りるうゝ」

【妃愛】

「お兄の腕好き」

【妃愛】

「重くなったら言ってね」

【妃愛】

「ね、ね、やっぱりチャペルでのウェディングって  
いいよねー」

【妃愛】

「私、結婚式の知識はぜんぜんなかったので、教会  
式ってこんなに素敵なんだあって驚いたよ」

【妃愛】

「ステンドグラスに囲まれた式場の赤いバージン  
ロードなんて、女の子の理想すぎて、見てるだけ  
で照れてきちゃうね」

【妃愛】

「あっ海外の式場もあるんだあ」

【妃愛】

「わうすごい！ お兄、見て見て！ 海に見えるチ  
ヤペルだって！ バージンロードも青だあ。周り  
一面が海なんてのもいいねえ……」

【妃愛】

「わっ森の中のチャペルもある！ 木々に囲まれた  
小さな教会、憧れるうゝ」

【妃愛】

「ほえー！ 地上3階の天空のチャペルなんか海  
外にはあるよ！」

【妃愛】「そっか、海外の式場かあ……海外なら、こっそり結婚式挙げられたり……するのかな？」

【妃愛】「家族旅行ってことにして、二人でこっそり誰にも見つからない教会で……」

【妃愛】「お兄がいつって言うってくれるなら、そんな未来を真剣に夢見ちゃうなあ」

【妃愛】「そのためにはないっぱい働くよ、いっぱい稼ぐ」

【妃愛】「現地での手配や交渉も私たちだけでやらないといけないから外国語だって勉強する」

【妃愛】「地球の裏側なら南米かな？ スペイン語かポルトガル語だね」

【妃愛】「私はね、もう諦めてたから」

【妃愛】「でもやっぱり心のどこかには憧れがあって……その憧れがお兄となら叶えられそうで」

【妃愛】「一度諦めてたものを手に入れるためのエネルギーってすごいよ」

【妃愛】「ただ欲しいだけのものを手に入れるときより、何倍ものエネルギーが出せる気がする」

【妃愛】「私、めっちゃがんばれる」

【妃愛】「お兄と二人で結婚式するんだあ」

【妃愛】

「今まではお兄を養って二人で暮らすのを目標にお金貯めてきたけど、これからはもっと前向きに、お兄と気持ちを一つにして一生二人で暮らすのを目標にする」

【妃愛】

「引退後の生きる目標ができた！ 私はがんばる、がんばるよ、お兄！」

【妃愛】

「だからお兄が私をお嫁さんにするためにがんばってくれるのも応援するうー」

【妃愛】

「今とても幸せ」

【妃愛】

「これからもずっとそばにいさせてね」

【妃愛】

「一生お兄のお世話をさせてね、えへへ」

【妃愛】

「……あによ、お兄。ちたくなってしまいました」

【妃愛】

「ここだと資正いるので……そによ、今日は私の部屋で」

【妃愛】

「資正ごめんね、ケージは開けるけど、散歩はあと1……2時間待ってね」

【妃愛】

「あ、そだ……私たちの秘密は誰にも話せないと思っていたけど、資正がいたね」

【妃愛】

「いつか私とお兄の結婚式を祝福してね」

---

【妃愛】

「それじゃあお兄、今日も……今日もいっぱい愛してもらうけど、明日も明後日もこの先も、健やかになるときも病めるときも」

【妃愛】

「この妹を愛してくだちやい」

【妃愛】

「んっ」

---

11 甘えループ

【妃愛】

「んふふふ」

【妃愛】

「お兄、お兄」

【妃愛】

「んーん、なんでもない」

【妃愛】

「えへへ、しゃーわせー」



12よちよちループ

【妃愛】

【妃愛】

【妃愛】

「よちよち」

「よちち」

「んゝよちよち」